

2010年1月8日

会員・関係 各位



特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)

ホームページ <http://khj-olive.com/>

明けまして おめでとうございます

いつも本会運営にご支援・ご協力頂き有難うございます。

昨年は「子ども・若者育成支援推進法」が成立致しました。

香川県は「ひきこもり地域支援センター」設置については、

2010年度も予算の関係上見送りとなりました。自治体・オリーブの会ともに、単に相談窓口と捉えず、それを生かすことができるかどうかで、2010年度のひきこもり対策において各県の差が大きく開く年になるのではないのでしょうか。そこで、本人への対応は勿論のこと会員の皆さんの知恵と持てる力も十分に生かして頂ければと願っています。今年もよろしくお願い申し上げます。

さて、月例会を下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

第9・1回月例会ご案内

- | | |
|--------|--|
| 1) 日 時 | <u>1月24日(日)</u> |
| | 13:00～13:30 受付 |
| | 13:30～13:40 報告・連絡(理事長) |
| | 13:40～14:10 1. パソコンの使い方と危険性について
さぬき若者サポートステーション
所長 鷲見 典彦 氏 |
| | 14:10～16:20 2. 私の活動をとおして思うこと
(ひきこもりの若者支援・親の会活動など)
KHJ徳島県「つばめの会」副会長
臨床心理士 浅田 みちる 氏 |
| | 引き続き グループカウンセリング (途中 休憩あり) |
| 2) 場 所 | 香川県社会福祉総合センター <u>6階</u> 研修室
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い |
| 3) 参加費 | 会員: 1家族 <u>1000円</u> 非会員: 1家族 <u>1500円</u> |

1. パソコンの使い方と危険性について: ひきこもりの子どもにとって、唯一 社会と繋がっている

のがパソコンだったり携帯だったりします。多くの子どもが掲示板やネットゲームを利用しています。今回 親も子どもとコミュニケーションをとれないまま安易に与えているケースが多く、報道で知るかぎりでは不幸な出来事に繋がる場合も少なくありません。そこで、何が危険なのか事例を示して専門家の鷲見氏（パソコン総合サポート e-DOME 社長）にお話をし、頂けることになりました。ご多忙のところ都合をつけて下さいましたので是非ご参加頂きますよう、また子どもとコミュニケーションのとれる方は、しっかり伝えて頂きたいと思います。（松田先生から周知についての依頼がありました）本人が参加できる方は是非一緒にお越しください。お待ち致しております。

2. **私の活動をとおして思うこと（ひきこもりの若者支援・親の会活動など）**：徳島県の親の会に入られ、実践しながら臨床心理士の資格を取得され、支援を続けられております。12月の例会の全体話し合いでは、親の対応の限界を感じている方が多くおられ、徳島県の例など紹介頂きながら一緒に考えたいと思っています。

【今後の月例会】

2月21日（日） 香川県社会福祉総合センター 13:30～16:30
NPO 法人津山きびの会 理事長 川島 三 氏
3月28日（日） 香川県社会福祉総合センター 13:30～16:30

【居場所活動予定】

1月 9日（土） 第2回（拡大）理事会 （13:30～16:00）
1月 9日（土） 松田勝先生 個人カウンセリング （9:00～13:00）
1月16日（土） パソコン教室（指導 さぬき若者サポステ）（13:30～16:00）
1月23日（土） ポパイの会 （13:30～16:00）

【前回(12/20)の例会より】

- 全体話し合い（抜粋） -

「ひきこもり地域支援センター」設置について

A：地域支援センターは何処にできるの？

川井：2010年度は予算の関係で出来ない、昨年お電話（障害福祉課 久保課長補佐様）でお聞き致しました。前回配布の厚労省社会援護局の坂本総務課長様の仙台大会報告では、2010年度は全国35都道府県市にできる予定とのこと。以前のオリーブの会のアンケートで、精神保健福祉センター内の希望が多かったことは県障害福祉課（川田課長様 当時）に結果報告を提出済みです。

A：地域支援センターは具体的にどんなことをするところ？

川井：先ほどお配りしました仙台大会での櫻井先生（心療内科医・参議院議員）の基調講演にもありますように、全くこのとおりと思います。ただ単に3つの役割（一次相談機能・各関係機関のネットワークの連携強化・地域のひきこもり対策にとって必要な情報を広く提供する）だけではなく、どういう方向でどういう業務をやっていくのかという内容をきちんと決めていかなければならない。このセンターを真ん中に置いた絵だけ見れば完璧ですが、これが機能するかどうかというのが、すごく大事と書かれています。

（ひきこもり相談窓口（各保健所・精神保健福祉センター・ニートのサポステなど）はいくら

でもあるといわれるが、我が子に結びつく窓口は実のところ何処なのかよく分からない。

この相談窓口に行けば、きちんとネットワークに結びついて、正しい方向性を持った指導、支援が継続して受けられることが大事。相談窓口の担当者は単に資格者というだけでは駄目だと思う。ひきこもりに理解のある担当者でなければならない。精神科医も臨床心理士も専門家と呼ばれる人もひきこもりに詳しいかといえ、そうとは限らない。オリーブの会もネットワークのなかに入りピアカウンセラーとして協力できると思う。)

B：訪問サポート士と支援相談士の違いは？

M：明確な違いは知りません。問題を抱えている方のところへ行って、親御さん、本人と会って家庭のなかでこもっている方を社会のなかへ出てきてもらう 狙いは同じである。親御さんの理解と本人が来てもいいというところから、少しずつ進めていけないかと考えている。親の役割では足りなくなって、本人が第三者を求めるようになった場合に最も必要。

C：本人が第三者に会うのも大変なことです、外へ出るのが一番のネックと思う。支援相談士の勉強をされて資格を取られたことを尊敬する。

M：延いては自分の子どものためになるのではないかと考えている。対応は、先ず「当事者を受け入れる」ことを基本姿勢としている。

D：ひきこもりの問題は偉大な先生であっても、適切な対応は難しいと思う。

【親の対応の限界と第三者の関わり】

M：親ができることには限界がある。高知の前教育長の大崎さんが子どもは社会が育てるものと強調されていたが、親ができること、親ができないことがある。今一番困っているのは、親にできないことの活路がない。その部分を何とかこのような会の中から打開していくというのが、我々の務めではないかと子どもに接しながら思う。親にできることに行き詰まり感を覚えている。

C：よく分かります。親のすることには限界がある。

E：それを打開するにはどうすればいいのか？

M：僕はいったいこれからどうして行ったらいいのかと子どもに言われるが、こうしたらいいという特効薬のような答えは、残念ながら持ち合わせていないと素直に答えている。

E：うちの息子は何したらいいか分からない、何もできないと言う そうしたら、こういうことをしていったらと言うと、それはしない。

C：それは第三者が言ったほうがいいのかと思う。

E：ある時期には親の役割があり親が一生懸命関わらなければいけないが、それが終わった時点で次の段階になるが、そこで子どもも決断して進むかというところと全然動かないので立ち止まっている。本当に少し押しやると動けると思うし、自分が行きたいところへ行けるし、買い物も行けるようになっている子はたくさんいるので、そのあと、どのようにして道筋をつけるかというところではないかと思う。

C：そのとおりと思う。親の会の親同士が、他の親の子と接触するのが効果があるのではないかと。相性の合う当事者との親というのもあると思うが。

B：40歳の息子、ひきこもりは長い。現在は暴力も収まっている。親を支配下において困っているが本人は満足している。専門家は、ひきこもり問題は親子関係のねじれなので、親子の間では解決できないという。第三者を介さなければならない。本人は満足しているようでも、このままで

はいけないという悩みを持っているはずだという。その悩みを誰かにぶっつけたいという悩みを、誰かに結び付けられたらと思うが本人は悩みを訴えない。突破口が見つけれない。「お前たちが悪いからお前たちが勉強してこい」とカウンセリングなどへは行くようにいう。自分の問題としないので第三者に結び付けられない。

第三者に結び付けるのはどういう方法があるのか、今までやってきた方法では進展が無く行き詰っている。

本人が心を開いて我にかえって欲しい。親の所為だ、社会が悪いと他人の所為にして自分自身を見失っている。地域支援センターができててもそこまで行く気がないと思うし、人と会おうとしない。地域支援センターのなかでオリーブの会が中心になって、いろいろやって行ったらと思う。本人は親が悪いとずっと思っている。罵詈雑言を受けていても本人がかわいそうと思っている。今は、本人の居場所を確保してやる、安心して居られる場所を与えてやる、息子を受け入れてやっている。毎日毎日、親に罵詈雑言をはかないといけないようにしたのは親だが、このまま終えさせると恨みっぱなしで一生を終えることになる。自分自身を取り戻して欲しい。

D：息子は不平不満を一切言わないから、何を思っているのか、考えているのか分からない。

Bさんの何でもそのまま受け入れてあげるのはいいいことだ。それを続けていくと次の段階に入るのでは。

B：買い物は年に3～4回出るだけ。年賀状は2～3通出していると思う。

C：年賀状の宛先の人に相談にのってもらうことはどうか？いい結果に繋がるかもしれない。

【ひきこもりの距離感・本人の気持ち】

C：ひきこもっていると運転が危険と思う。

F：経験からですが、ひきこもっていると距離感がつかめなくなる。

B：皆さんの息子さんは、本人が自分のこととして悩んでいるのか、このままではいけないと思っているのか、どちらでしょうか。

(それは 皆 本人がそう思っていると思う)

F：自分は過食症だった。この苦しみから逃れたかったことが、家を出るきっかけとなった。

Bさんは息子さんに素直に謝ったのか。

B：謝ったことはある。「今頃 遅い！」と言われた。

【ストレスの影響】

D：高一で身長130cmだった子の話、成長ホルモンの分泌が止まっていた。親が常にストレスを与えたのが原因。親が、ああしろ、こうしろと常にうるさく言わないよう努めた結果、脳が活性化して急に身長が伸び始め、現在は175cmにまでなっていると聞いた。(松田先生からお聞きした話)

B：身長ではなく、精神面でも同じように影響を与えているということですね。

【就 職】

G：最近 息子が動き始めた。30歳までには就職すると言っていた。折込みを見て面接に行って、今回二交代制の会社勤めを始めた。携帯も車も持っていなかった。本人が払うからローンを組んでくれということで、そのようにした。強迫神経症で家では手袋も水もたくさん使う。本人には聞

けないが、会社でどうしているんだろうと思っている。

動けたのは、親があまり細かく言わなくなって変ったと思ってくれたからなのか、自分が動かないと駄目だと思って動いたのかは分からない。

B：会社勤めで外へ出ると、強迫神経症は治ると医者から聞いているが。

【共依存と家事手伝い】

H：38歳の息子、顔を合わすことは滅多に無い、食事は皆が居ない時一人で食べる。散髪は自分で行くし、買い物もバイクで夜行っているようだ。松田先生から「家の中の手伝いをしてもらったら」と言われたが、何を手伝わせたらいいのか迷っている。今まで手伝いさせたことがない。

J：最後に息子さんが入るのだったら、風呂掃除をしてもらえばいいのではないかと。うちも会話がないので3回くらい手紙で伝えた。

H：息子が風呂掃除しなかった時に、おばあちゃんに迷惑かける。自分達だけだと辛抱できるが。

K：うちの息子は決めないで、仕事としてお願いするとやってくれる。決めるとしない。

D：うちは息子に言えないが、家を空けると家事も犬の散歩もしてくれている。親が困ったら動いてくれる。

F：親と子は共依存の関係、親がするから子はしない。その環境を意識して断ち切るとよい。親が変わらないと子の変化はない。急激な変化は危険である。

H：子どもが親にガミガミ言っていた時は友達もいたが、本人が諦めたのか何も言わなくなってから4～5年経つが友達もいなくなった。

親の亡き後を考えると、ひきこもりから何とか出て欲しい。親はいつまでも働けないし、だんだん年を重ねると心配になる。少しでも外へ出て欲しい。

F：夜、外へ出るのがひきこもり、昼、外へ出られるのはひきこもりのというが、自分はひきこもりの生活を16年間続け、母親が亡くなってから外へ出られるようになった。今は警備の仕事をしている。

【生活設計（国民年金・小遣い）】

D：親が亡くなって本人が変わったとよく言われるが、ずっと以前から考えていたが、両親が突然亡くなった場合を考え、当分は生活できるようにお金を渡している。小遣いも少しずつ渡しているが外へ出ないからお金は貯めていると思う。

B：国民年金は掛けてやっているのか。

D：掛けてやっている。国民年金引き落としの通帳も別に作ってやっている。

L：2年前にバイク事故を起こしてそれからひきこもった。外へは出られるけど、小遣いが無いから出ない。国民年金も親がまとめて払ったが、それが果たして子どもにとって良いのかどうか、すごく悩んだ。小遣い渡すのも良いのか悪いのか悩んだ。他人から甘やかすから働かないといわれる。家の手伝いはしてくれる。子どもを一生懸命育ててきた、きっと親の後姿を見て育てられるだろうと思っていたが、結果として今の状態になった。

皆さんは小遣いを渡すことについて、どういうふうに思っているのか。

M：小遣いは渡さないほうが良いというのは、これまで専門家の話や本などからも聞いたことが無い。きちんと渡すことがエネルギーの源になるというのを、教えられた知識だが何回も聞いているし、そう思っている。一般に親戚の方々の殆どは甘やかすと捉えているそうなので、それには耳を貸

さないほうが良いと思う。 あくまで私の意見です。

【手遅れ発言】

N：親がしてあげられなくてごめんねと謝ると、本人は何歳になっても、もう手遅れや という。

M：手遅れ発言は10歳でも言います。やはり必要な時に、必要なことをしてくれなかったというこ
とで、手遅れと言われる。あの時にして欲しかったと言われるが、そこまでして欲しいと親に伝
わっていなかった。

【ものを言わない】

O：10代からひきこもって20年近くなる。ものを言わない。部屋に暖房器具も置いていない。

時間的に規則正しい生活をしている。1日に2回は顔を合わすが、ものは言わない。

F：ものを言わない期間が長く続くと最初の言葉が出なくなって喋れなくなる、話が出来なくなる。

O：顔を合わしたときは、応えないが話しかけるようにしている。

【パニック障害】

P：15年以上 ひきこもり期間は長くなったが、この間完全なひきこもりばかりではない。アルバイトに行ったりしていた。あるときから電車に乗れなくなった。資格取得に挑戦、失敗してからひきこもっている。昼夜逆転があってもそれ程心配していない。自分で病院にも行っている。(月2回程)調子のいい時はパチンコにも行ってるらしい。

「自分の人生楽しまなければ」と他人に教えてもらって、親の気持ちが楽になった。

親も元気が一番、一日でも長生きして元気でがんばりましょう。

(話し合いの内容は当日承諾頂いた上で概要を掲載しています。年齢は少し変更している人もいます)川井

「迎春」明けましておめでとうございます。

旧年中はいろいろとお世話さまになりました。どうか今年も宜しく願い申し上げます。

謹啓 いよいよ本年、引きこもり案件への国の施策が正念場を向かえます。

引きこもり案件が本年四月より、新法「子ども・若者育成支援推進法」

の施策の施行が始まり、他に新たなガイドラインが出される運びです。

いよいよ本年より当該案件への国の施策や方針が本格的にスタートします。

これに先立ち「ひきこもり」の

内閣府の公開講座が2月13日(土)に東京大学「安田講堂」で

厚労省系のシンポジウムが2月19日(金)に日経ホール「カンファレスルーム」で

関係者や一般関係家族を対象に各開催されます。

特に首都圏の引きこもり関係の家族や支援者の方々はこれ等の催事に是非参加し

内閣府、厚労省への支持を明確に表明し、今後の引きこもり案件への国のより力強く

血の通った施策や支援を獲得すべく参画をお願い申し上げます。 敬伯

全引連 KHJ 本部 理事長 奥山 雅久、理事会、部会長会(顧問団)

今年が皆様にとってよりよい年でありますよう祈念申し上げます。